医療法人惇慧会

外旭川病院だより

第10号
2023年1月

理　念

人間を大切にする企業風土をつくり
人間を幸せにする企業を目指します

指　針

1．何事にも積極的に挑戦します
2．創造力を働かせ、新しい価値を創っていきます
3．地域と共に生き、地域に貢献できることを喜びとします

基本方針

1．医療人としての自覚を持ち患者さんの命と尊厳を守ります
2．患者さんの人権とプライバシーを最大限に尊重します
3．地域社会の一員として地域の医療・福祉の充実に努めます
4．思いやりのある医療と快適な療養環境を目指します
5．自己研鑽に努め質の高い医療を提供します



天地創造　山岡 清紫（平成11年）
外旭川病院2階ホスピス病棟

2病院機能評価の更新審査を終えて/ 3[チーム医療]摂食嚥下支援チーム/ 3新入職員あいさつ/ 4医療健康情報

患者さんの立場で考え続け　「医療の質と安全の向上」を目指す

病院機能評価の更新審査（４回目）を終えて

外旭川病院　事務長　照沼　諭

当院では２００３年より公益財団法人日本医療機能評価機構による病院機能評価の認定を受けております。病院機能評価とは医療の質と安全の向上を目的として、専門的で中立な第三者組織である評価機構が、客観的に病院の機能や体制、運営と医療の質等を５年に１回評価し認定するものです。病院全体の部署に関わる多数の項目に関して、初めに自己評価を行い、課題点の改善に取り組みます。その後、２日間の審査を受け、客観的な評価と具体的な改善方法等が示されます。このようないわゆるPDCAサイクルを用いて継続的に取り組むシステムは、当院の優れた点や、改善された点、これから改善すべき点などが明確に把握できます。また、評価や改善の取り組みには全職員が関わるため、院内の他部署への理解も進み、院内の標準化や連携・協力体制の構築に大きく寄与するものとなっています。

当院は、慢性期病院の主たる機能に加え、副機能として緩和ケアの認定を受けており、この度２０２２年１１月３０日と１２月１日（偶然にも前回の更新審査と同じ日でした）の２日間にわたって４回目の更新審査を受審いたしました。当日は、“審査”という独特の雰囲気や緊張感がある中、開院当初から当院にて診療にあたる院長ならではの病院概要の説明でスタートしました。開院初日のエピソードをはじめ「なるほどな」「そういうことがあったんだ」と思う出来事が説明され、結びに語られた患者家族とのやり取りやかけられた言葉、それを受けての院長自身の言葉に一同グッと胸が熱くなりその時すっと緊張感が和らぎました。その後、書類確認・面接調査・ケアプロセス調査･部署訪問と４名のサーベイヤー（診療･看護・事務）から病院の組織体制や運営方針、質改善の取り組み等に加え、病棟では一連の経過に沿って提供される医療サービスについての審査を受けました。

この２日間、サーベイヤーの方と色々なお話しをさせていただく中で、“患者さんにとって何が最良なのか”、“患者さんのために何が出来るのか”という視点を常に持ち続け、考え続けていかなければならないことをあらためて考えさせられる良い機会となりました。また、当院の職員同士があらゆる場面で協力する姿勢がみられ大変良かったというお話を伺い、今後も部署間、職種間、部署内でさらに醸成していければと感じました。

今後も、患者さんや家族に当院を選び来てよかったと感じていただけるよう、そして当院の職員に出会えて良かったと思っていただけるよう、全職員が改善活動を地道に続け、今よりも着実に医療の質向上に向けて取り組んでまいりたいと思います。

私自身、初めての病院機能評価の審査でしたが、とても充実した色々と”きっかけ”となる時間となり、「客観的な評価を受けること」の重要性をあらためて感じる２日間となりました。

「病院機能評価」は日本医療機能評価機構による評価です

国民の健康と福祉の向上に貢献することを目的とする公益財団法人として1995年に設立された日本医療機能評価機構は、病院が備えているべき機能について、中立・公平な専門調査者チームによる「病院機能評価」審査を行い、一定の水準を満たした病院を「認定病院」としています。評価の項目として「患者さんの視点に立って良質な医療を提供するために必要な組織体制」や「実際に医療を提供するプロセス」「病院全体の管理・運営体制」など約90項目があります。認定病院は、地域に根ざし、安全・安心、信頼と納得の得られる医療サービスを提供すべく、日常的に努力している病院と言えます。現在、全国の約25%の病院が病院機能評価を活用しています。

チーム医療 ⑥

摂食嚥下支援チームについて

リハビリテーション科　石田　祐希

摂食嚥下（えんげ）支援チームは、入院患者さんの嚥下機能を維持・向上し安全に口から食べることを目的に活動を行っています。チームメンバーは、摂食嚥下担当医、主治医、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、社会福祉士など多職種で構成しています。



チームでは、嚥下機能、口腔・咽頭機能、認知機能、運動機能などの評価をもとにカンファレンスを行い、経口摂取の可否や今後の目標・方向性を設定しチーム全体でアプローチしています。患者さんに適した食事の摂取方法や介助方法の検討を行い、誤嚥のリスクの高い患者さんには食べ物を用いずに頚部や口腔周囲筋のストレッチや体操から始めることもあります。のどに食べ物が残りやすい患者さんにはゼリー食を選択するなど食べ物の硬さや大きさ、トロミの調整を行い、個々の機能に合わせた食形態の提供をしています。また、食形態だけでなく食事姿勢についても介入し、車椅子座位、ベッド上座位について安定した姿勢で安全においしく食べられるよう支援しています。

「口から食べる」ことは、生命活動に必要な栄養摂取という目的の他に、「おいしい」「楽しい」「うれしい」と感じることにより、ストレス軽減や生きる喜びや意欲となります。また全身活動へも良い影響があり、食べ物を認知して、においをかぎ、噛んで、味わい、飲み込むことにより関連した脳の部位が刺激され活性化されるといわれています。そして食道・胃・腸を食物が通過することにより、消化管が廃用性の萎縮状態となるのを防ぐ役割にもなっています。

患者さんの健康を食事から支えられるよう、チームメンバー全員で協力し活動を続けていきます。

新入職員あいさつ



看護部
照井さん

6月から4病棟に配属になりました。当院へ就職するまでは急性期病院で経験を積んできましたが、急性期を脱した後も医療行為を必要とする患者はどのように生活を送るのか、その後の継続医療にも興味があり慢性期の病院への転職を決めました。入職時は今までとは違う環境の中で不安や戸惑いもありましたが、先輩方からたくさんサポートしてもらい、少しずつ慣れてくることができました。
まだまだ未熟な点は多いですが、今後もひとり一人の患者様との関わる時間を大切にし、看護に励んでいきたいと思います。



看護部
渡邉さん

10月に入職し、日々の業務をこなすことで精一杯で余裕のない日々を送っていますが、病棟スタッフの皆様にいつも温かい言葉をかけてもらい、楽しく働かせていただいています。
義父が外旭川病院ホスピスでお世話になり在宅で最期を看取るまで、いつも家族の不安な気持ちに寄り添い、耳を傾けてもらいました。
これまでの経験を生かしながら一人一人の患者さんやご家族の気持ちに寄り添いながらその人らしい最期を迎えられるような看護を目指していきたいと思っています。
まだまだ仕事と育児にバタバタですが笑顔を忘れず日々頑張っていきたいと思います。

脂質異常症について

検査科　深浦　洋子

職場や医療機関の健康診断の結果、コレステロールや中性脂肪が高いと指摘されたことはありませんか？
高いまま放置しておくと、命に係わる重大な疾患につながります。
今回は1 脂質異常ってなに？　2 どんな症状なの？　3 予防法や治療法　についてお話します。

1 脂質異常ってなに？

脂質異常症はコレステロールや中性脂肪の値によって分類されます。

●脂質異常症の診断基準

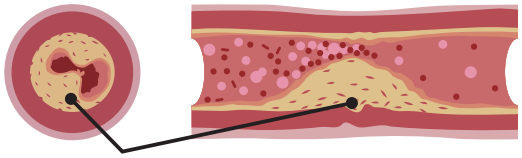
高中性脂肪血症	１５０mg／ｄＬ以上
高ＬＤＬコレステロール血症	１４０mg／ｄＬ以上
低ＨＤＬコレステロール血症	４０mg／ｄＬ以下

（診断基準にあてはまれば脂質異常として判定されます）

2 どんな症状なの？

脂質異常症は見た目の変化や痛みなどの自覚症状はありません。しかし、異常のまま放置すると「プラーク」というものが出来て血管内に堆積し動脈硬化が発生します。動脈硬化により血管が固くなり次の疾患のリスクが発生します。

・脳梗塞　・脳出血　・心筋梗塞　・狭心症
・大動脈瘤　・閉塞性動脈硬化症



コレステロールなどで狭くなった血管
（プラーク）

3 予防法や治療法

脂質は体に必要な三大栄養素の一つです。体のエネルギーの貯蓄や運搬、細胞やホルモンなどを作る材料となり体に欠かせないものです。

①食生活を見直しましょう

現代の食生活は欧米化の影響を受け、高脂質なものを多く摂取する傾向にあります。脂身の多い肉、バター、マーガリン、生クリームといった脂質の多い食事は控えめにし、食物繊維を多く含む食品、ゴボウ、ひじき、シイタケ、わかめ、ブロッコリー、玄米ごはんなどの摂取を心掛けましょう。アルコールの過剰摂取は脂質異常の原因となります。食事をする際は、「よく噛んでゆっくりと、腹八分目」を心掛けましょう。

②運動の習慣をつけましょう

厚生労働省は「１日１万歩」歩くことを推奨していますが、いきなり１万歩は難しいと思います。日常の生活動作、家事なども軽い運動になります。毎朝ラジオ体操をする、エレベーターではなく階段を使用、近所へ買い物に行くときは歩いて行くなど、無理のない範囲で毎日続けることが大切です。



医療法人 惇慧会
外旭川病院
〒 010-0802 秋田市外旭川字三後田 142
TEL 018-868-5511　FAX 018-868-5577
https://jkk-sotohp.or.jp/sotohp/

日本医療機能評価機構 認定第 LL54 号

■ 病床数 241床(療養病棟 207床、緩和ケア病棟 34床
■ 診療科目 /内科、皮膚科、リハビリテーション科

